

平成 8 年 宇治橋修復工事（京都府 宇治市）



京都の宇治平等院のちかく、645 年につくられた
日本最古の橋といわれています。

その後、幾度も流され、1995 年に架け替えられました。
木材部分は高欄をはじめすべての材を納品しました。

平成 12 年 観音寺（津観音五重の塔 新築工事） 三重県 津市



人々から“津の観音さん”と親しまれている真言宗の古刹です。

（709 年開山）日本三観音のひとつ

五重の塔は 間口三間 総工費3億 高さ21m

平成 13 年 5 月に落成



平成 12 年 東寺・大日堂改修工事（京都市）



東寺は、正しくは教王護国寺といい、平安建都
の際、羅城門の東につくられました。

大日堂は 2000 年に大改修を終え、これを記念
して内部に、日本画家・浜田泰介氏による、
障壁画を 2 年がかりで
完成しました。



平成 12 年 高山寺・薬師堂（和歌山県・田辺市）



真言宗御室派、開創年代は不明ですが、聖徳太子の創建と伝えられます。弘法大師が中興し、自作の像を残したといわれ、縄文時代の貝塚跡や、博物学者・南方熊楠や、合気道の創始者・植芝盛平の墓もあります。

平成 12 年 藤井寺（とうせいじ）・三重塔新築工事（大阪 豊中市）



日蓮聖人立教開宗 750 年を記念して
着工されました。

高さ 16.3m

化粧材・桧 24.7 m³ (18.16 t)

野物材。桧・杉 22.3 m³ (16.7 t)

平成 13 年 9 月落成



H12.9 工場にて木材検査

平成 12～13 年 飯積神社拝殿新築工事（愛媛県 西条市）



起源はさだかではありませんが大変古く、食物の神
カミヤミコト、日本武尊の皇子・ヤマトノミコなど四柱の
神を祀っています。「お飯積さん」とよばれ、豪華
に装飾された太鼓を打ち鳴らす、西条まつりでしら
れています。拝殿新築工事は平成 12 年から 13 年
まで行なわれ、木材料（化粧材・桧 小節以上
野物材・杉 特一等 すべて納品しました。

平成 13 年 西本願寺 御影堂（京都市）



浄土真宗本願寺派の本山。文永 9 年（1272）宗祖・親

聖人の末娘、覚信尼が京都の東山大谷に建立した廟堂に
始まります。その後、大阪、和歌山を転々とした後、

天正 19 年（1591）豊臣秀吉が土地を寄進、現在地に移
りました。境内には書院、唐門、飛雲閣などの国宝や多
くの重要文化財があり、平成 6 年に世界文化遺産に登録
されています。

御影堂は浄土真宗の宗祖、親鸞聖人をお祀りする建物で、間口 62m、奥行き 48m、高さ 30m、今から
約 360 年前の寛永 13 年（1636）に建てられ、重要文化財に指定されています。

（修理工事の概要）

修理は平成 10 年度より約 10 年間をかけて行います。



1 素屋根

工事に先立ち、建物を守り、足場となる覆い屋を建設。
通常丸太を使うが今回は規模が大きいので鉄骨造り。

2 屋根

瓦（12 万枚）をすべて降ろして葺き直します。

1 枚の重さ約 10k。使える瓦は使います。

3 壁

建物の背面の大きな白壁を塗り替えます。

4 木部

小屋の中の折れた梁を取替えます。

柱や縁などの材料の傷んだ部分を繕います。

5 内装

内陣廻りに貼り付けられた表具をいったん取り外して修理をし
ます。極彩色をクリーニングします。



(木部修理の概要)

1 箕甲 (みのこう) ・ ・ 入母屋の屋根上部の両端に使われるカーブをえがく桁



桧 丸太 4.6m~8.6m 径 36cm~50cm

御影堂には4ヶ所 計36本の箕甲がありますが
その内 31本を交換しました。



上から5番目がもっとも曲がりが大さい



垂 野 木

桧 赤身・割 長さ 5m~6m 90mm × 90mm 約500本
長さ 4m 90mm × 90mm 約 82本
長さ 3m 90mm × 90mm 約 80本
長さ2.5m~2m 90mm × 90mm 約 110本

豎 棧

杉 赤身・割 長さ 4m 60mm × 91mm 約 1600本

野地板

杉 赤身 長さ 4m 300mm × 15mm 約1400枚



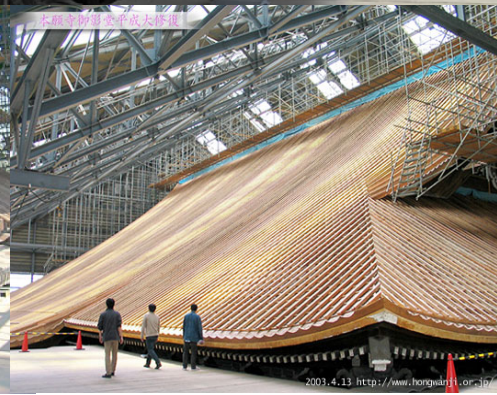
野 隅 木

桧 長さ6m



切 裏 甲

桧 赤身・上小 長さ1.2m 300mm~400mm × 120mm 約 230枚



平成14年 野見神社拝殿新築工事（大阪高槻市）



この神社の創始は古く、宇多天皇（887～897）の代とされる。
この地方に疫病がはやり、神託により須佐之男命を祀ったところ、
疫病が治まったといわれます。キリスト教信者の高山右近が城主
になった際、取り壊されましたが、元和5年（1619）高槻城主
松平紀伊守によって復興されました

拝殿の新築工事は平成14～15年にかけて行われ、すべての木材を納品しました。

化粧材 桧 無地 約 85㎡

野物材 杉 一等 約 61㎡ ほか建具材 桧 無地 約4㎡ を納品しました。

平成15年 長福寺（大分県日田市）保存修理



長福寺本堂は、寛文9年（1669）に建てられたと伝えられて
います。現存する真宗寺院本堂としては、九州最古のもので、
全国的にみても大変貴重な年代の建物です。

間口18m、奥行17.6m、高さ12mの規模です。

大分県指定の有形文化財に指定されています。

保存修理工事は平成14年から4ヵ年の計画で、柱と梁など主な骨組みを残す、半解体修理でした。



（主な納品材）

化粧材

桧 柱 赤勝・上小 5.4m 195mm×195mm4本

化粧裏板 小節 4.0m 300mm×12mm23坪

他 桔木 桧 6.0m～4.0m 180㍉ 26本

裏甲、垂木、長押、天井板等

野物材 杉 赤勝・特一等 母屋、根太、野垂木、野地板等 合計 約95㎡を納品いたしました。

平成 14～16 年 四国霊場5番札所 地藏寺 六角堂・方丈・大玄関新築工事



弘文 12 年（821）嵯峨天皇の勅願により、弘法大師が開創されたと伝えられます。本尊の勝軍地藏菩薩（1 寸 8 分）はその折刻まれたといわれます。現在は浄函上人の彫られた 2 寸 7 分の地藏尊の胎内に納められています。

天正年間の兵火により、大師堂と御影堂を残し殆ど焼失し、その後復興され現在に至ります。

六角堂・方丈・大玄関は平成 14 年から 16 年にかけて新築されました。方丈・玄関に使われた木材のすべてを納めました。



大 玄 関



六角堂と方丈



方丈廊下



方丈破風板	桧	9.0m	550mm×240mm	4 枚
方丈隅木	桧	8.0m	300mm×120mm	2 本
玄関桁	桧	8.0～6.0m	240mm×150mm	8 本
		4.0m	240mm×150mm	5 本
丸 柱	桧	三方ムジ	3.0m	360mm×360mm



丸柱

柱	桧	4.0m	210mm×210mm	74 本
		4.0m	150mm×150mm	54 本
		4.0m	120mm×120mm	47 本
長押		7.0m	175mm×70mm	3 本
		5.0～6.0m	175mm×70mm	17 本
大敷居		6.0m	210mm×210mm	1 本
大鴨居		6.0m	360mm×360mm	1 本 など

平成15年 同志社クラーク記念館



同志社大学のシンボルとして広く知られています。

明治25年(1892)にドイツ人リヒャルト・ゼール氏によって設計され、京都の小嶋佐兵衛の請負で建築され、明治27年1月に開館式を迎えました。国指定の重要文化財です。

今回の工事は半解体修理で平成15年1月から19年12月までの予定です。今回の工事では後世に改造された部分を撤去し、建築当初の形式を基本として復元され、再び教育、研究の場として活用される予定です。

塔屋受梁

桧 赤身・特一 6.0m 480mm×260mm 2本

2F 床根太

桧 赤身・小節 8.5~5.6m 390mm×240mm 7本
4.1~2.1m 390mm×240mm 7本

小屋組(梁等)

桧 赤身・特一 7.5m 280mm×215mm 2本
4.0~3.0m 280mm×215mm 11本

桧 赤身・小節 8.0m 218mm×218mm 4本
3.0m 218mm×218mm 2本

床板

杉 赤身・上小 4.6~4m 188mm×42mm 670枚
3.3~2.0m 188mm×42mm 319枚

他 床材 総材積 約30.5 m³

現在も納品中です。



平成15年 請田神社（やすだじんじゃ）保存修理（京都・保津町）



創祀・和銅2年（709）、丹後開拓の伝承を持つ神社の一つで、保津町の氏神様です。亀岡を代表する神社です。永禄年間に社殿が消失し、寛永年間に現在地に社殿を造営しました。

社殿は石垣の上に建てられ、境内から保津峡が見下ろせます。



本殿・拝殿の主に軒まわり 化粧材、野物材を含む、桧・杉材 約 10 m³を納品しました。

平成15年～16年 真浦神社（兵庫県 家島）



家島は瀬戸内海に浮かぶ小さな島です。

神武天皇が御東征のみぎり、難波に向かわれる途中、暴風雨のため、難を避けて入港され、「波静かにして家の内にいるようである」と仰せになり、「いえしま」と呼ぶようになったそうです。11月には、本島の真浦神社と、宮浦神社で秋祭りが行なわれます。

主に 杉・桧の一等材、約 80 m³ を納品しました。

平成16年 長谷寺観音堂修復工事（長野県）



寺の開基は1400年前といわれ、大和、鎌倉と並ぶ日本3大長谷寺として名高く、その威容は今も健在です。観音堂は260年程前に建てられたといわれ、城壁のような石垣の上に立ち、小型ですがその姿はとても豪壮です。

桧 化粧材 約 14.3 m³

桧・杉 野物材 約 28.6 m³

平成 15 年 玉林院（京都大徳寺）保存修理



大徳寺の塔頭寺院（たちゅうじいん）の一つで、慶長 8 年

に創建されました。その後、慶長 14 年に火災で失いましたが、まもなく再興されました。本堂は大徳寺の塔頭寺院の中では最も規模が大きく、本堂室内の襖には狩野探幽ら狩野一門の絵師による水墨画が描かれ、重要文化財にしていされ、非公開です。

平成 15 年から 19 年 12 月まで、本堂、玄関ともに屋根まわりを中心に半解体修理を進めています。

（主な納品材）

廊下柱 桧 赤身・割 四方柱 4.0m 209mm×209mm 1 本 4.0m 170mm×170mm 1 本
4.0m 144mm×144mm 8 本（四方無地）

縁拭板 桧 赤身 無地・中杢 4.0m 415mm×30mm 12 枚 1.0m 12 枚

ほか桧材 鴨居・敷居・化粧垂木・布裏甲・茅負・化粧裏板・天井板・床板など約 20㎡ を納めました。

平成 16 年 澤井家住宅保存修理（京田辺市）



澤井家住宅は元文 5 年（1740）から翌年にかけて建てられたもの

門跡領の代官職を勤めていたことから接客機能を重視した特殊な平

をもち、重要文化財に指定されています。今回の修理は、解体修理で、

工事期間は平成 16 年 1 月から 19 年 2 月までの予定で、建築当初

の

形式を基本として復原・整備される予定です。

（主な納品材）

足固め 桧 赤勝 6.0m～3.0m 272～212mm×105mm

化粧裏板 杉 赤・上小 3.0～2.0m 300～240mm×9mm 約 96 枚

軒桁・土居桁・登梁・桔木（はねぎ）等

（桧 丸太・タイコ挽 10.0～5.0m 径 30～22cm 15 本）

垂木 桧・杉 芯持 4.5～2.5m 82～76mm × 76～70mm 135 本

野地板 杉 赤・特一 4.0～3.0m 252～240mm× 15mm 119 枚



平成 15 年～16 年 清水寺



北法相宗の本山。西国三十三ヶ所第 16 番の札所です。

宝亀 9 年（778）延鎮上人が開山、延暦 17 年

（798）坂上田村麻呂の創建と伝えられます。

音羽山中腹に 30 近い堂塔伽藍が並び、現在の主な

建物は寛永 10 年（1633）徳川家光の再建です。

舞台で知られる本堂は国宝で、ほかに重要文化財に

子安の塔、仁王門、馬駐（うまどめ）、鐘楼、西門、

三重塔、経堂、田村堂、轟門、朝倉堂、釈迦堂、奥の院などがあります。1994 年世界文化遺産に登録

されました。本堂舞台、奥の院舞台、仁王門、田村堂、随求堂などに修復材を納品しました。

（平成 15 年 仁王門解体修理）

清水寺の正門で赤門と呼ばれています。重要文化財。

応仁の乱後、15 世紀末に再建されました。

正面軒下に平安の名書、藤原行成の筆と伝えられる“清水寺”

の額を掲げ、両脇に勇壮な大仁王像を祀っています。

正面 10m、奥行き 4.8m、軒高 8.5

平成 15 年に解体修理が行なわれ、垂木、破風板、登梁、木負

茅負、裏甲。懸魚（げぎょ）などを納品しました。



（平成 16 年 随求堂修復）

享保 3 年（1718）再興

堂下を随求菩薩の胎内にみたて、真っ暗な空間を数珠だけを

たよりにして巡る胎内めぐりができます。

この堂下の材（框、鴨居、敷居等）をすべて納品しました。

他に縁板などを納品しました。



（平成 16 年 田村堂（開山堂）修復）

寛永 8～10 年（1631～33）の再建。重要文化財。化粧裏板、垂木等を納品しました。

平成 16 年 清水寺舞台修復工事



奥の院



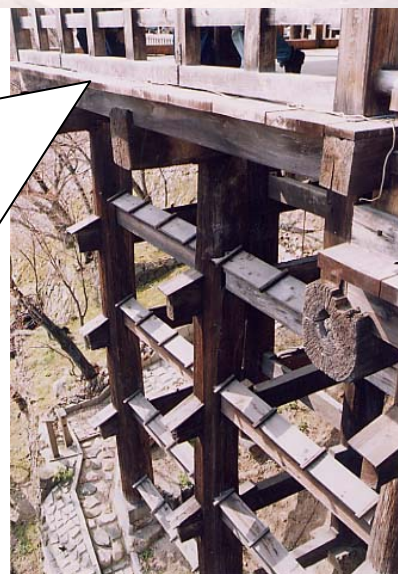
本堂舞台庵板

桧 赤身・特一 4.2m 330~450mm × 100mm 53 枚

赤身・特一 5.0m 330~450mm × 100mm 65 枚

奥の院舞台縁板

桧 赤身・特一 8.2m 330~450mm × 100mm 38 枚

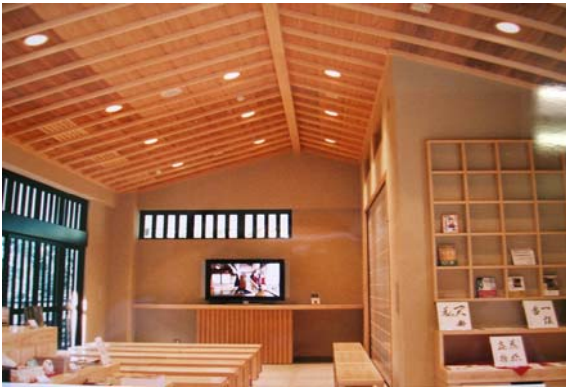


平成 17 年 三千院宝物館新築工事



比叡山延暦寺の別院で、天台宗の門跡寺院です。梶井門跡とも呼ばれ、三千院とよばれるようになったのは明治以降です。創立は788年、最澄が梨の木のもとに円融房を建てたのが始まりといわれる。有名な往生極楽院は1143～1148年建立といわれます。

宝物館円融蔵は、三千院開創1200年（平成18年）を記念して新築され、展示室に往生極楽院の現存最古の船底天井（縦約4.3m、横約3.3m）を原寸大で再現し、天井や壁にえがかれている平安時代末期の飛天や曼荼羅図が再現されてます。平成18年10月に完成しました。



天井板

杉 赤身・ムジ	赤	6.0m	380mm	×	12mm	8枚
		4.5m	380mm	×	12mm	5枚
		2.0m	380mm	×	12mm	11枚
杉 赤身・ムジ		4.0～3.0m	360～240mm	×	12mm	130枚
		2.0～1.0m	480～240mm	×	12mm	118枚



床板

杉 赤身・上小		6.0m	130mm	×	21mm	61枚
		3.0～1.0m	130mm	×	21mm	366枚



壁板

杉 赤身・上小		2.0～1.0m	200mm	×	24mm	605枚
その他	杉8m 地覆、廻、桧6m 天井桁等	総材積 約36 m ³				

